



辻団地

## 「親切心に触れて」



主人の実家がある益城町に引越して来たのは、長男の小学校入学、次男の出産を控えた6年前のことでした。様々な不安を持つての転居でした。しかし、子どもと一緒に散歩していると、近所の方々と笑顔で「こんにちは」と声をかけてくださいました。その明るい挨拶が、安心で安全な住心地にしてくれました。また、鍵っ子の子どもは、私の帰宅が遅くなり不安になると、近所の友達の家に行つては、夕食までご馳走になっていることもありました。

このコーナーは、皆さんで作っていただくコーナーです。日ごろ感じていること、体験したことなどを自由に発言していただくため、題名は特に決めていません。次回の方は、執筆者の紹介で登場していただきます。

我が子同様に声をかけ、心配して頂く友達のご家族の気配りは、本当に嬉しくてたまりませんでした。何かと不安を抱いていただけに、多くの人の親切を身に沁みて、ありがたく思う毎日でした。

他人の親切で、心の中がとても温かくなり、他人に親切を与えることの素晴らしさ、大切さを、この時ほど強く感じたことはありませんでした。この6年間を振り返ると、たくさんの方の親切心に励まされ、支えられて生きてきたように思います。

現代は、とかく殺伐とした世の中だと言われています。多くの人の支えがあつてこそ、私たちの日々の生活は成り立っているのです。昨年からは、私の職場も益城町に変わりました。明るく住みよい町になるために、町民の一人として、働く者の一人として、地域社会の人々に感謝し、周囲の人々に親切と思いやりの心を忘れないで、明るく生きていくことを目標にしています。

今回は、南の泉田由紀さんに登場していただきます。

わがまま

再見

④

### 九州山本山熊本工場

海苔(のり)とお茶の老舗としておなじみの「山本山」熊本工場(本社：東京日本橋)が、広崎の九州自動車道沿いにあります。工場は独立採算で、正式社名は「九州山本山」。

#### ◆銘茶「玉露」の生みの親◆

「山本山」は、元禄3年(1690年)の創業で、もう300年以上の伝統を持つ、超老舗の企業です。江戸幕府本丸の御用茶師を勤め、6代目の山本嘉兵衛は京都宇治の木下家で「玉露茶」を発明しました。いまに伝わる玉露の本家本元でもあるのです。

現在、同社の製品は、焼きのり、味付けのり、煎茶、玉露など1,000ほどのアイテムがあります。いずれも高品質の原材料にこだわったいわば「高級品」で、熊本では鶴屋と阪神のふたつのデパートだけで取りあつかっているそうです。

#### ◆交通の利便性で益城に立地◆

工場は静岡工場(島田市)と熊本工場のふたつだけで、海外

## 300年の伝統持つ超老舗

ではロサンゼルスに現地法人を、ブラジルに大規模な茶園を経営しています。

熊本工場の操業開始は昭和49年11月。熊本県の誘致工場として立地しました。のりの生産地有明海に近く、交通の利便がいい、いくつかの候補地の中から、益城町に決まりました。

熊本工場は、32,000㎡の敷地に真つ白い工場棟など6棟があり、55人の従業員が働いています。のりの乾燥から裁断、包装までと、ティーバッグ(袋入り茶)の製造を行っています。隣接地には約10,000㎡のグラウンドがあります。

寺井昇次郎工場長は「土、日は地域の方々に開放できます。おとなのソフトボールくらいはできますので、ぜひご利用ください」と語っています。(T)

